

世界の藍染

上衣 中国 貴州省 20世紀初め 撮影:小林直道

2020年
10月2日金 → 12月18日金

開館時間=午前10時→午後4時30分

10月16日、11月13日は午後7時まで開館、入館は閉館の30分前まで

※混雑時には入館をお待ちいただくこともあります。

休館日=日曜日・祝日・月曜日・水曜日

入館料=一般500円、大高生300円、小中生200円

※障がい者とその付添者1名は無料

INDIGO BLUE



世界の藍

INDIGO BLUE

藍は世界中で古くから用いられている植物染料です。地域によって蓼藍、琉球藍、インド藍、太青など使用する植物の種類や染色法は異なりますが、堅牢で比較的手軽に染めることができるため、基本の染料として広く親しまれてきました。藍染は、絞り染や型染、ろうけつ染といったさまざまな技法と組み合わせたり、他の色の染料を重ねて染めたりすることによって多彩な表情を見せます。本展では、日本、アジア、アフリカ、中米など、約40か国の藍染の衣装や布を紹介し、それぞれの地域で藍染がどのように取り入れられてきたのかを探ります。



男性用衣装 ニジェール 20世紀後半

蟒袍 中国 19世紀末



藍染のコルテ (グアテマラ サンタ・カタリーナ・パロサ) 野口スズ子撮影/文化学園服飾博物館所蔵



小袖 江戸時代後期



アジュラックを巻く男性 (インド グジャラート州) 松島さよえ撮影/文化学園服飾博物館所蔵



絞り染めのヴェールを被る女性 (ナイジェリア) 松島さよえ撮影/文化学園服飾博物館所蔵



黒モン族の女性 (ベトナム サバ) 野口スズ子撮影/文化学園服飾博物館所蔵



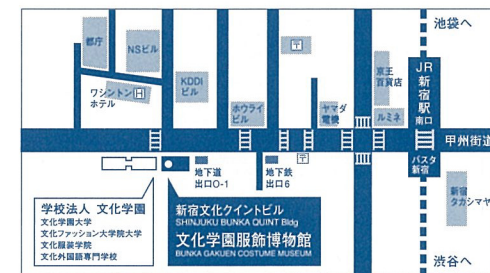
掛布 インド 19世紀末



ベスト用布 (部分) フランス 1780年代



肩掛 (部分) インドネシア ジャワ島 1980-90年頃



文化学園服飾博物館
BUNKA GAKUEN COSTUME MUSEUM

〒151-8529 東京都渋谷区代々木3-22-7 新宿文化クイントビル
TEL.03-3299-2387 JR・京王線・小田急線新宿駅(南口)より徒歩7分
都営地下鉄新宿線/大江戸線/京王新線新宿駅(新都心口)より徒歩4分 地下道出入口O-1に隣接

学校法人文化学園

文化学園大学 / 文化ファッション大学院大学 / 文化服装学院
文化外国語専門学校 / 文化出版局 / 文化学園服飾博物館